

8月1日(金)に開催しました「カラムーチョ 30周年新CM発表会」にて  
配布した資料の改訂版となります。

2014年9月16日

<報道関係各位>

株式会社湖池屋

湖池屋「カラムーチョ」発売30周年  
**芦田愛菜ちゃん、池田清彦教授、金田一秀穂教授が  
カラムーチョに対する想いを激白！?**

新TV-CM「インサイト」篇、「まともじゃない」篇、「マ行五段活用」篇(各15秒)

10月4日(土)から全国オンエア開始

株式会社フレンテの事業会社である株式会社湖池屋(本社:板橋区/社長:田子忠)は、9月に発売30周年を迎えた辛ロスナック菓子「カラムーチョ」のCMキャラクターとして、女優の芦田愛菜ちゃん、生物学者の池田清彦教授、言語学者の金田一秀穂教授を起用し、新TV-CM「インサイト」篇、「まともじゃない」篇、「マ行五段活用」篇(各15秒)を、2014年10月4日(土)から全国で放映開始いたします。



湖池屋 カラムーチョ 新TV-CM  
「インサイト」篇より

## ■TV-CM について

---

国内産の生じゃがいもを 100%使用した「カラムーチョ」は、1984 年の発売以来、辛くておいしいポテトスナックとして、大変多くの皆様からご好評をいただいています。この度、発売 30 周年の節目を迎え、新たに TV-CM を制作。CM キャラクターに、女優の芦田愛菜ちゃん、生物学者の池田清彦教授、言語学者の金田一秀穂教授を起用しました。

新 CM では「カラムーチョ」をテーマにしたインタビューという設定のもと、芦田愛菜ちゃん、池田教授、金田一教授がそれぞれ独自の視点で語り始めます。

芦田愛菜ちゃんはカラムーチョに対する想いを「子どもでも、やっぱり辛いものを食べてみたいという気持ちは当然あるんです。そういう時には、カラムーチョはすごくちょうどいい。気持ち的にすごいフィットします。インサイト(消費者心理)をえぐられる。」と出演映画のインタビューを受けているような雰囲気の中、大人顔負けのマーケティング用語を使って告白します(「インサイト」篇 15 秒)。

それに対して池田教授は生物学者の視点から「普通生き物ってね、辛いもの食べないんですよ。生き物は本能的に辛いもの避けてるのね。人間は辛いもの食べるっていうとてもバカな生き物ですよ。動物として人間はまともじゃない」と、辛いものである「カラムーチョ」に対して「超」のつくほど辛口なコメント(「まともじゃない」篇 15 秒)。

また、金田一教授は「マ行五段活用の動詞であれば『ムーチョ』をつけられます。カラムーチョ、シャガムーチョ、凹ムーチョ、ツッコムーチョ、ハニカムーチョ～」と言語学者ならではの視点ではありながらも、肝心なカラムーチョから脱線していくトークを展開します(「マ行五段活用」篇 15 秒)。

いい意味で子どもらしくない大人っぽい言動の愛菜ちゃんと、子どものように暴走する大人の 2 人の教授が繰り広げる、思わずクスッと笑ってしまうインタビュー映像が、本 CM 一番の見どころとなっています。3 タイプ(15 秒×3 タイプ)の作品にご注目ください。

## ■撮影エピソード

---

### ◇よどみのない堂々とした受け答えはまさにハリウッド女優

愛菜ちゃんがハリウッドデビューを果たした話題の映画『パンフィック・リム』(8 月 9 日公開)。そのインタビュー映像にインスピレーションを得た監督のアイデアで、愛菜ちゃんの撮影は、ホテルのスイートルームで撮影しました。監督自らインタビューア役となり、「あの映画のインタビュー、とても良かったね。あんな感じを目指してるんだ」と声を掛けると、愛菜ちゃんは「はい、分かりました」と元気よくコメント。本番のカメラが回り始めるやいなや、すっかり女優の顔に変わった愛菜ちゃんのユーモアを交えた堂々たる受け答えは、まさにハリウッドスターといった雰囲気、周りのスタッフの視線を釘付けにしていました。

### ◇カラムーチョはもちろん、すっぱムーチョもお気に入り??

撮影では大人顔負けのお芝居を見せる愛菜ちゃんですが、時折見せる素顔はやはり10歳の女の子。約30分間のロングインタビューを終えた瞬間、緊張から解放されて、ふーっとため息をついた時の姿はなんともいじらしく、微笑ましい光景でした。ちなみに愛菜ちゃんは、カラムーチョの姉妹ブランドである、「すっぱムーチョ」がとってもお気に入りとのこと。

### ◇ノリノリの辛口トークにスタッフ一同大爆笑!

「普段、学生たちに講義しているような感じでお願いします」という監督の指示を受けて、「内容がバカバカしくて面白いよね」「CM撮影は慣れてないけど、こんな感じでいいの?」などと笑顔を見せながら、終始ノリノリで撮影に臨んでいた池田教授と金田一教授。事前に用意していた質問に加えて、専門外的话题を振っても、膨大な知識と経験の引き出しから矢継ぎ早に面白い話を披露するなど、お二人ともそれぞれ約1時間ムービーカメラを録画し続けるという緊張感漂う撮影ではありながら、笑い声の絶えない明るい現場となりました。

### ◇これは売れる!?教授たちが太鼓判を押す斬新過ぎる新味とは……

カラムーチョが大好きで、普段からよく食べるという池田教授と、愛菜ちゃんと同じくどちらかというと「すっぱムーチョ」の方が好きという金田一教授。そこからテーマは、今はまだ存在しない新しいカラムーチョに及びトークが弾みました。「東南アジアではカメムシを煎って香辛料にしているから、カメムシムーチョなんて売れると思うよ。あとは、魚の腸を使ったニガムーチョはどう?」という池田教授に続いて、金田一教授からも「酸っぱくて辛いスーラムーチョとか、じゃがいもの代わりにさといもを使ったのもいいな。食べた後に、ネバーツとした感じが楽しめるさといもムーチョなんていいんじゃない?」という意見が。教授たちの斬新過ぎるアイデアには、周りのスタッフもただ目を丸くするばかりでした。

### ◇昆虫をデコレーションした誕生日ケーキのサプライズ!

撮影当日、奇しくも67歳の誕生日だった池田教授のために、スタッフがサプライズで誕生日ケーキを用意しました。そのデコレーションケーキは、切り株の上に大きなカブトムシが乗っているというもので、これには昆虫好きの池田教授も大喜び。「こんなに嬉しいケーキをもらったのは初めてだよ。ありがとう!」と、満面の笑みを浮かべながら感謝の言葉を述べていました。

■新 TV-CM「インサイト」篇(15 秒)ストーリーボード



(芦田愛菜ちゃん)  
子どもでも、やっぱり辛いものを食べて  
みたいっていう気持ちは当然あるんです。



(芦田愛菜ちゃん)  
そういう時には、カラムーチョは  
すごくちょうどいい。



(芦田愛菜ちゃん)  
気持ち的にすごいフィットします。



【NA】  
もっとムーチョ！  
カラムーチョ！  
コイケヤ！



(芦田愛菜ちゃん)  
インサイト(消費者心理)をえぐられる。

■新 TV-CM「まともじゃない」篇(15秒)ストーリーボード



(池田清彦教授)  
普通生き物ってね、  
辛いもの食べないんですよ。



(池田清彦教授)  
生き物は本能的に辛いもの避けてるのね。



(池田清彦教授)  
人間は辛いもの食べるっていう  
とてもバカな生き物ですよ。



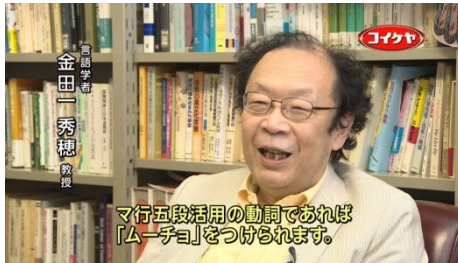
【NA】  
もっとムーチョ！  
カラムーチョ！  
コイケヤ！



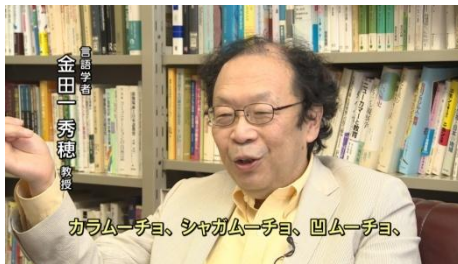
(池田清彦教授)  
動物として人間はまともじゃない。



■新 TV-CM「マ行五段活用」篇(15 秒)ストーリーボード



(金田一秀穂教授)  
マ行五段活用の動詞であれば  
「ムーチョ」をつけられます。



(金田一秀穂教授)  
カラムーチョ、  
シャガムーチョ、  
凹ムーチョ、



(金田一秀穂教授)  
ツッコムーチョ、  
ハニカムーチョ、



(金田一秀穂教授)  
凹ムーチョ…



【NA】  
もっとムーチョ！  
カラムーチョ！  
コイケヤ！



(金田一秀穂教授)  
すいません…ごめん。

## ■CM 概要

---

タイトル : 湖池屋 カラムーチョ 新 TV-CM  
「インサイト」篇、「まともじゃない」篇、「マ行五段活用」篇 (各 15 秒)  
出演 : 芦田愛菜、池田清彦、金田一秀穂  
放映開始日 : 2014 年 10 月 4 日(土)  
放送地域 : 全国

## ■制作スタッフ

---

広告会社	電通アドギア
制作会社	Rooftop Inc.
CD	亀井尚裕
PL	辻憲司
プロデューサー	小田桐団、斉藤基樹
PM	豊田晋介、榎本聖美
企画・演出	庄司輝秋
撮影	谷内哲昭
VE	金丸知人
録音	原俊宏
キャスティング	小林要一朗
ヘアメイク	久慈拓路、馬場伸二
スタイリスト	浜松あゆみ

**【読者からのお問い合わせ先】**  
株式会社湖池屋 お客様センター  
Tel.0120-941-751  
受付：月～金 9：00～17：00  
(祝日除く)

**【報道関係者からのお問い合わせ先】**  
株式会社湖池屋 広報課：小幡/山口  
Tel.03-3979-2112 Fax. 03-3979-2156  
〒175-0094 東京都板橋区成増 5-9-7  
E-mail. [pr@frente.co.jp](mailto:pr@frente.co.jp)